

カサゴの稚魚千匹を放流

大きくなってまた会おうね！



9月16日、上対馬町西泊海水浴場で比田勝小学校の6年生25人がカサゴの稚魚を放流しました。上対馬町漁協青壮年部（中村公徳部長）が水産資源や栽培漁業の重要性を理解してもらうため行ったもので、児童は、人口ふ化後、約7.5センチに成長した稚魚を海岸から大切に放していました。カサゴは「アラカブ」「ホシカリ」とも呼ばれ北海道以南から東シナ海の沿岸に広く分布しており、ゴカイや



カサゴの稚魚

「生まれた時は何色？」「何歳まで生きる？」「対馬水産業普及指導センターの職員に熱心に質問をしていました。」

自然環境に適した色に変化するカサゴは、浅いことでは、岩や海藻の色に合わせた褐色、青い光が差す深場では、灰色に見える赤い色に変化する魚で、大きいものは約20センチに達し、寿命は約10年、今回放流した千匹の稚魚の内、次世代へ命をつなげるのは2割にも及ばない非常に厳しい世界です。放流を行った宮原翔馬（12歳）くんは「カサゴが小さいから他の魚に食べられないか心配です」と話してくれました。

小魚などを大きな口で捕食する肉食性、唐揚げや味噌汁などにすると非常においしい魚です。児童は、「何

隠れた対馬の名所を巡る

こしま HOT SPOT

豊玉姫の墳墓

以前、彦火火出見尊と豊玉姫命が祭られている和多都美神社をご紹介いたしました。ここには、むかし寝るときにおじいちゃんやお母さんに聞かせてもらった昔話、浦島太郎を思い出させるような神話が伝えられています。

その神話とは、獣を採るのが得意な山幸彦が、あるとき漁の得意な兄の海幸彦に話をもちかけお互いの道具を交換しました。海幸彦が狩りの道具を持って山に、山幸彦が釣りの道具を持って海に出掛けますが山幸彦は兄の大事な釣り針を無くしてしまいます。兄の許しを得るために自分の剣から千本の釣り針を作りましたが許してもらえず、海岸で途方に暮れていると塩椎神が現れて、舟を与え助言をしてくれました。助言のとおり舟に乗っていく



とわたつみの宮（竜宮）に着き、そこで出会った海神の娘（豊玉姫）と恋におち結婚をします。

3年の月日が経ったある日、ふと兄の釣り針のことを思い出し、豊玉姫の父に相談すると鯛の喉に引っかかっていた釣り針が見つかり、妻をおいて地上に戻ります。地上に戻った山幸彦と海幸彦の間に再び争いが生じますが、帰りに海神から頂いた潮を操る2つの玉のおかげで山幸彦は勝利し、海幸彦は忠誠を誓います。その後、夫をおつてきた豊玉姫と山幸彦の間に生まれた子供が鶴背不合命で、神武天皇の父になる人だそう

です。神話にはまだ続きがありますが、神話のお話はこの辺で・・・実は、この和多都美神社の社殿の裏には木漏れ日キラキラ降り注ぐ神秘的な空間があります。そこには豊玉姫の墳墓がヒソソリと祭られています。社殿が造営される以前は、ここが祭場だったのではないのでしょうか。

和多都美神社に行かれた際は社殿の裏まで足を運んでみてください。

対馬市役所観光物産推進本部

0920(53)6111

メールアドレス

asightseeing@city_tsushima.jp